

旅するがっこう 2026.6.20 (土) -21 (日)

## ウミガメ観察キャンプ@静岡県～卵観察編～

NPO法人 くにたち農園の会  
東京都国立市谷保5119  
やぼろじ内 (事務局)  
連絡先: 042-505-7200  
kunitachinouen@gmail.com

初日はあいにくの雨となりましたが、うなぎパイファクトリーへの工場見学から活動がスタート。昆虫館にも立ち寄り、特別展のイモムシやヘラクレスオオカブトをはじめ、さまざまな昆虫や生き物たちに大興奮。キャンプ場に到着してからは、雨の中で山の上のローラー滑り台へ！びしょぬれになりながらも、普段なかなかできない遊びを思いきり楽しみました。そのまま温泉で温まり、大雨の中での難易度の高い火おこしも、みんなで協力してあっという間に成功。おいしいご飯を囲みながら、楽しい夜を過ごしました。



残念ながら星空は見られませんでした、それはまた次回のお楽しみです。



### 2日目はいよいよ、早朝からウミガメの卵探しへ。

上陸した痕跡を探しながら、左右互い違いになっているのはアカウミガメ、左右そろっているのはアオウミガメであることや、砂の盛り上がり方からどちらの道を通って海へ帰ったのかななどを教えていただきました。

一つ目の痕跡は、産卵せずに海へ帰った跡。残念…と思いながら進んだ先で、二つ目の痕跡からは産卵した跡を発見！深さ約60cmの穴をみんなで掘り進め、一人ずつ大切に卵を取り出しました。



### 数えてみると、なんと145個！

平均110～120個のところ、今回はたくさんの卵が見つかりました。卵は生んだ衝撃で割れないように柔らかく、重さは平均33gほど。子どもたちから歓声が上がりました。カメは一生で約5000個の卵を産みますが、大きくなって再び産卵に戻ってくるのは、その中のたった1頭。20～40歳で産卵を始め、2年に1度、産卵する年には3週間ごとに何度も卵を産むことなど、命の不思議についてもたくさん学びました。



今回案内して下さった先生は、40年以上にわたってウミガメの調査と保護活動を続けてこられた方です。「産卵地になっているなら守らなければ。」そんな思いから始まった活動は、浜松市で調査員の許可なく卵を採取した場合に罰則を設けるなど、地域の法整備にもつながりました。コアジサシの繁殖地でもあるこの場所を「サンクチュアリ」と名付け、多くの命を守り続けています。

その後は、みんなでビーチクリーンを行いました。海岸には大きなごみから小さなごみ、そしてたくさんのマイクロプラスチックが落ちていました。「もっと拾いたい！」「魚が食べちゃっているかもしれないね。」そんな子どもたちの言葉からも、自然や海への優しいまなざしが感じられました。



### 早起きをして約3kmの海岸を歩き、たくさんの発見と感動に出会った2日間。

雨の中だからこそ味わえた楽しさ、みんなで協力した達成感、そして小さな命の不思議と大切さ。子どもたちの「やってみよう！」という気持ちと、保護者の皆さまの温かい見守りのおかげで、今回もかけがえのない時間を過ごすことができました。



自然の中で過ごした時間や、みんなで見つけた145個の命が、子どもたちの心の中にいつまでも残り続けてくれたら嬉しいです。9月には、元気に育った子ガメたちを海へ送り出す～子ガメ観察編～を予定しています。子ガメたちと再会できる9月を楽しみにしています。